

## 2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

## I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	10 現代経済学科	責任者	池田 剛士
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	A
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<p>《回答》授与する学位ごとに、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を定め、公表し、これら教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成し、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じ、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行い、学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価し、教育課程及びその内容、方法の適切性を定期的に点検・評価し、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っている。</p>			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<学位授与方針> (記入してください。)		変	有0
現代経済学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（経済学）の学位を授与する。		更	無(✓)
<p>1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能</p> <p>(1)深い洞察力・グローバルな視野を支える教養・語学力を持っている。</p> <p>(2)経済に関する幅広い知識が身についている。</p> <p>(3)経済社会における各種のデータを収集・分析する能力が身についている。</p> <p>2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力</p> <p>(1)他者の声に耳を傾け、自分の考えを的確に伝え、協働して問題解決にあたることができる。</p> <p>(2)経済社会における様々な問題について、経済学の知識と手法を用いて数量的に考察することができる。</p> <p>3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感</p> <p>(1)社会の状況や動向に関心を持ち、積極的に知ろうとする意欲がある。</p> <p>(2)現実の経済的諸問題についての具体的解決策を見出す能力を使って社会の発展に貢献することができる。</p> <p>4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解</p> <p>(1)自校の文化への認識を持ちつつ、様々な価値観を持った異文化社会を理解・尊重する態度が身についている。</p> <p>(2)グローバルな視野を持ち、社会の諸問題に合理的に対処しようとする態度が身についている。</p>			
評価の視点1	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
<p>《回答》</p> <p>なし</p>			
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
★<教育課程の編成・実施方針> (記入してください。)		変	有()
現代経済学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。		更	無(✓)
1. 教育内容			

<p>(1)経済に関する知識・分析手法を基礎から着実に修得できるよう、「経済学の基礎」「現代日本経済」「現代世界経済」「経済データ分析入門」(1年次)、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」(2年次)などを必修・選択必修科目とする。</p> <p>(2)数的手法に裏づけられた情報分析・問題解決能力が身につくよう、「入門数理」「経済数学」(1年次)、「経済データ分析」(2年次)、「計量経済学」(3年次)などを必修・選択必修科目として設置するとともに、金融論、産業組織論、情報の経済学、経済会計等の分野において、選択必修科目を多く配置する。</p> <p>(3)幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける。</p> <p>(4)学生の主体性・協調性・表現力が涵養されるよう、「基礎演習」(1年次)、「専門演習」「一般演習」(2～3年次)、「卒業研究」(4年次)など、学部共通の演習科目を設置する。</p> <p>(5)社会に対する幅広い関心を持つよう、公共政策・産業事情等の実社会にかかわる専門科目、法学・産業心理学等の隣接領域科目、キャリア特別講座などを充実させる。</p> <p><b>2. 教育方法</b></p> <p>(1)外国語科目、1年次必修科目(「基礎演習」「入門数理」「経済データ分析入門」等)を中心にクラス指定による少人数編成を行い、学生の着実な理解を促す。</p> <p>(2)1年～4年次まで演習科目を整備し、教員・学生間のインタラクティブな教育を実施する。</p> <p>(3)学生が学修成果を発表できる機会を提供する。</p> <p>(4)社会・現代経済の両学科間の相互履修可能性を高めた教育課程編成を行う。</p> <p><b>3. 評価方法</b></p> <p>(1)学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価は、経済学部の履修規程に定める単位取得状況を含め、卒業要件を達成しているかどうかによって判定する。</p> <p>(2)進級判定制度(2年次修了時点で、3年次以降の発展的科目を履修するための基礎レベルが習得できているかどうかを判定する)、個別面談(1年次から4年次の各学年において、科目履修状況に応じて学習行動を確認する)などによって学習達成度を判定する。</p>	
<p>評価の視点1 【基礎要件●】</p>	<p>上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。</p>
<p>評価の視点2 【基礎要件●】</p>	<p>上記の方針は、学位授与方針に整合している。</p>
<p>評価の視点3※ 【基礎要件●】</p>	<p>上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト(大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7</p>
<p><b>(DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。)</b></p>	
<p>DP1. (1)、(2)、(3) → CP1. (1)、(2)、(3) DP2. (1)、(2) → CP1. (4) DP3. (1)、(2) → CP1. (5) DP4. (1)、(2) → CP1. (3)、CP2. (1)</p>	
<p><b>★項目(2) 4-2DP1 から DP4 について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか(あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</b></p>	
<p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであります。なおここでは DP1 のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p>	
<p>《回答》</p> <p>DP「1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能」(1)に明示した「深い洞察力・グローバルな視野を支える教養・語学力を持っている」、(2)に明示した「経済に関する幅広い知識が身についている」、(3)に明示した「経済社会における各種のデータを収集・分析する能力が身についている」については、CPの「1. 教育内容」(1)で、経済に関する知識・分析手法を基礎から着実に修得できるよう、「経済学の基礎」「現代日本経済」「現代世界経済」「経済データ分析入門」(1年次)、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」(2年次)などを必修・選択必修科目とすると述べられており、同じく、CPの「1. 教育内容」(2)で数的手法に裏づけられた情報分析・問題解決能力が身につくよう、「入門数理」「経済数学」(1年次)、「経済データ分析」(2年次)、「計量経済学」(3年次)な</p>	

どを必修・選択必修科目として設置するとともに、金融論、産業組織論、情報の経済学、経済会計等の分野において、選択必修科目を多く配置すると述べられており、同じく「1. 教育内容」(3)で、幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける、と明示している。

DP「2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力」(1)に明示した「他者の声に耳を傾け、自分の考えを的確に伝え、協働して問題解決にあたることができる」、(2)に明示した「経済社会における様々な問題について、経済学の知識と手法を用いて数量的に考察することができる」については、CPの「1. 教育内容」(4)で、学生の主体性・協調性・表現力が涵養されるよう、「基礎演習」(1年次)、「専門演習」「一般演習」(2～3年次)、「卒業研究」(4年次)など、学部共通の演習科目を設置する、と明示している。

DP「3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」(1)に明示した「社会の状況や動向に関心を持ち、積極的に知ろうとする意欲がある」、(2)に明示した「現実の経済的諸問題についての具体的解決策を見出す能力を使って社会の発展に貢献することができる」については、CPの「1. 教育内容」(5)で、社会に対する幅広い関心を持つよう、公共政策・産業事情等の実社会にかかわる専門科目、法学・産業心理学等の隣接領域科目、キャリア特別講座などを充実させる、と明示している。

DP「4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解」(1)に明示した「自校の文化への認識を持ちつつ、様々な価値観を持った異文化社会を理解・尊重する態度が身についている」、(2)に明示した「グローバルな視野を持ち、社会の諸問題に合理的に対処しようとする態度が身についている」については、CPの「1. 教育内容」(3)で「幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける」、CPの「2. 教育方法」(1)で「外国語科目、1年次必修科目(「基礎演習」「入門数理」「経済データ分析入門」等)を中心にクラス指定による少人数編成を行い、学生の着実な理解を促す」と明示している。

◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

〈回答〉

なし

点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス	
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー	
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ	
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き	
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9、10	
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス	
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き	
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。	
★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて、概要を解説してください。		
〈回答〉	例えば、浦田健二の「基礎演習」の概要および授業の到達目標は以下のようになっている。「疑問に思ったことを調べ、調べたことを整理し、判明した事実にもとづいて論理的に考え、さらにその考えの反論を想定しつつ、自分の意見を構築していくことは、大学での学習においてもっとも主眼とすることです。本演習はこれらに関連する作法を習得し、今後の勉学、特に2年次以降開講される「専門演習」への準備をする場として位置付けられます。レポートの書き方を主眼としてパソコンを用いて学習します。授業の到達目標：論理的な文章が書ける。簡単なデータ処理ができる。テーマにそってレポート作成ができる。根拠に基づいて意見を述べ、発表する。本を読んでレジュメを作り、発表する。」	〈根拠資料〉 10-C4-1: シラバス「基礎演習」浦田健二
評価の視点9※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き	

評価の視点10※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点11	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。
★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料(該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など)を用いて回答してください。	
<回答> 例えば、角田保の「ビジネス・コンピュータ講座(論理思考・データ処理スキルA)」概要および到達目標では「Excel・ExcelVBA・Python(主に openpyxl と pandas ライブラリ)を学びます。到達目標:マウスをあまり使わずに Excel などのソフトをスムーズに操作できる。Excel のいろいろな機能を理解し、スムーズに操作できる。簡単な Python のコードを理解し、Python から Excel も操作できる。」とある。	<根拠資料> <b>10-C4-2:シラバス「ビジネス・コンピュータ講座(論理思考・データ処理スキルA)」角田保</b>
★項目(3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。	
<回答> 「アクティブ・リーディングA・B」。最も基本的な英語の科目であるから選定した。	
★項目(3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。	
<回答> 様々なテーマで授業が開講されており、経済に関する多種多様な科目から選択が可能である。また、統計・情報処理系の科目も充実しており、1,2年次の「経済データ分析入門」「経済データ分析」、3,4年次の「情報と経済」「ビジネス・コンピュータ講座」などでスキルアップしていくことが可能である。 1年次からゼミで学ぶことも特徴の一つであり、いずれのゼミも20名程度の人数で資料検索、文章作成、口頭発表などの訓練を行っている。演習を重ねることで課題を解決する力がつくと考えられる。3年生が主体となって行う「演習成果発表会」ではゼミの研究成果の発表を「パネル部門」「口頭発表部門」に分けて行い、日々の成果を競うものである。これらのイベントは学生たちの学びに対するモチベーションアップにも役立っている。	
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。	
<回答> なし	
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9
★項目(4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 (注:「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。)	
<回答> 教職、諸資格科目を履修している学生がいるが、措置は講じていない。	
★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる(履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要)。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。	
<回答> 措置は講じていない。	<根拠資料> <b>10-C4-3:</b>
★(上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください) ①諸資格科目(教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等)履修学生数:10人 ②長期海外留学終了者 学生数:0人 ③編入生 学生数:0人 ④転学部・転学科生 学生数:0人	<根拠資料> <b>10-C4-4:2023年度履修登録状況</b>
評価の視点2※	シラバスの内容(到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示)に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。

	根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	
評価の視点3※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	
評価の視点4	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。	
★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて解説してください。		
(1)主体的な学び(演習、実習、フィールドワークなど)の事例		
「回答」	主体的な学びのために、例えば中島正人の専門演習Ⅰでは「ディベート、テキスト輪読、パソコン・図書館等での情報収集、グループ作業、発表等、様々な形態で授業を進める」とされている。	「根拠資料」 10-C4-5:シラバス「専門演習Ⅰ」中島正人
(2)インタラクティブ(双方向)な授業展開のための少人数授業の事例		
「回答」	少人数で双方向的な演習形式で、コミュニケーションの機会を保障したグループ活動の授業として基礎演習、専門演習Ⅰ,Ⅱ、一般演習、卒業研究を設置している。例えば、布袋正樹の専門演習Ⅰでは「①人口減少が日本経済に及ぼす負の影響とその対策について理解し説明することが出来る。②テキストの内容をレジュメにまとめ、わかりやすく報告し質問に答えることができる。③レポートを作成することができる。④他者の報告内容を理解し質問することができる。」とある。	「根拠資料」 10-C4-6:シラバス「専門演習Ⅰ」布袋正樹
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例		
「回答」	コミュニケーション機会の確保事例として、加藤正昭の専門演習Ⅰでは「先生に与えられたテーマを学習するのではなく、学生自身で興味を持つテーマを見出す能力を身につけることができるようになることが第一の到達目標です。それを通じて自身の個性を明確に認識することができ得ます。そして、そのテーマの研究に自主的に取り組み、能動的な学習を行うことが第二の到達目標です。その主体的学習の過程を通じて、第一目標のテーマ発見で見出した個性の萌芽を開花させ、自主的研究の試行錯誤を通じて思考能力や発言力(コミュニケーション能力)、協調性、リーダーシップ能力などを身につけていくことができることも到達目標です。」とされている。	「根拠資料」 10-C4-7:シラバス「専門演習Ⅰ」加藤正昭
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例		
「回答」	グループ活動の事例として、湯川志保の専門演習Ⅰでは「この授業では、研究を進めるにあたって必要なアンケート調査やデータ分析、フィールドワークの各方法について学びながらグループで研究を行ってまいります。研究テーマは各班で興味関心のあるテーマを選択して研究をすすめてまいります。」とある。	「根拠資料」 10-C4-8:シラバス「専門演習Ⅰ」湯川志保
(5)効果的な授業方法について上記(1)~(4)以外の事例		
「回答」	岡田知久の専門演習Ⅰでは「前半は動画を用いた反転授業の形式で行う。行動経済学・実験経済学の基本に関する動画を視聴しオンラインでの実験を行ったうえで、その内容に関するグループワークを行う。」とあり、反転授業やオンラインでの実験といった手法が取り入れられている。	「根拠資料」 10-C4-9:シラバス「専門演習Ⅰ」岡田知久
評価の視点5	学習の進捗と学生の理解度の確認	
★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。		
「回答」 特になし。		
評価の視点6※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入)	
評価の視点7※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
★項目(4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示して		

いるか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。	
<<回答>> 特になし。	<<根拠資料>> <b>10-C4-10 :</b>
評価の視点 8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。
<b>★項目(4) 4-4⑥授業形態（講義、実習、演習）によって、1授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。（例：演習科目、実習科目は少人数（原則10名以下）、大規模講義科目は原則200名まで、など）</b>	
<<回答>> 該当なし。	
評価の視点 9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。
<b>★項目(4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みについて、記述してください。</b>	
<<回答>> 特になし。	<<根拠資料>> <b>10-C4-11 :</b>
<b>◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。</b>	
<<回答>> なし	
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
評価の視点1※ <b>【基礎要件●】</b>	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位認定等の適切な認定</li> <li>・GPAによる成績評価</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置</li> <li>・卒業・修了要件の明示</li> <li>・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり</li> </ul> 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料
評価の視点2※ <b>【基礎要件●】</b>	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】</li> <li>・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>・適切な学位授与</li> <li>・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul> 根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート10,12
<b>◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。</b>	
<<回答>> なし。	
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
評価の視点1※ <b>【評価要件○】</b>	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
評価の視点2※ <b>【評価要件○】</b>	学生の学習成果の測定方法を開発している。 <<学習成果の測定方法例>> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
<b>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」</b>	

以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。	
<<回答>> 卒業率、進級率を学科の評価指標としている。	<<根拠資料>> 10-C4-12：2021年12月 教授会資料
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。	
<<回答>> 「学生認識／行動調査 2022」の結果報告から、現代経済学科の授業満足度は6.55であった。また、2022年度、現代経済学科の卒業率は92.50%、進級率は97.09%。	<<根拠資料>> 10-C4-13：2023年3月1 日教授会資料、2023年6 月教授会資料
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。	
<<回答>> 特になし。	
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。	
<<回答>> 特になし。	
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点1※ <b>【評価要件○】</b>	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について
評価の視点2 <b>【評価要件○】</b>	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。他大学事例：	
<ul style="list-style-type: none"> <li>論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。</li> <li>「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。</li> <li>英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。</li> <li>論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。</li> </ul>	
<<回答>> 経済学部演習成果発表会ではゼミ間での競争性を取り入れ、研究水準の向上を図っている。	<<根拠資料>> 10-C4-14：2022年12月 教授会資料
★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
<<回答>> 点検・評価シートの作成を通じて判明した問題点を教授会で報告し、課題を共有した。	<<根拠資料>> 10-C4-15：2023年6月教 授会議事録

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色	
-----------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点	
---------	--

課題
----

## IV【改善計画（事業計画）】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B票№ or 開始 年度	改善計画 (アクションプ ラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	3	2022- 4Ⅲ- 1(4- 7)	学科の教育プログラムの改善・向上	自己点検・評価を行う際に、学習成果の測定結果を踏まえた教育効果を検証し、学科の教育プログラムの改善・向上を目指す。	評価の測定結果の活用事例の明確化と、教育改善の実行	A: 80~90%以上 B: 50% C: 30% D: 作成に向けた準備	2022 未結 果: D 2023: D 2024: D 2025: C 2026: C 2027: B 2028: A

## V【内部質保証委員会による点検・評価】

<p><b>2022年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例、教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例、授業方法としてグループ活動の活用の事例に記された積極的な取り組みは高く評価できる。</p> <p>また、2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、卒業率、進級率としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p>
<p><b>2023年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学位授与とその体系的な教育課程の編成は齟齬がなく、入学してからすぐに学生を巻き込む工夫としての基礎演習の設置など少人数制による演習形式の講義が学年ごとに開講されていることは評価できる。学生の主体的な参加を促すインタラクティブ（双方向）授業は各教員が工夫して行っていることも読みとれ、評価すべき取り組みであるといえる。ただ個別の基礎演習、専門演習の工夫もさることながら、演習科目全体での双方向学習の関する改善と向上の取り組みがあるのかどうかは読み取れなかった。</p> <p>学習成果を卒業率、進級率、アンケートによる満足度評価で振り返りを行っていることは高く評価できる。演習成果の発表は本学科の学生の主体的学びを促す取り組みであり、そのノウハウの蓄積は重要であろう。各学年で演習系の科目を履修した学生の学習成果の把握（より客観的に自己能力の向上を把握できるか）かについて、基準なり判断基準を学科全体で共有できればより望ましい。</p> <p>事業計画のアクションプランとして「学科の教育プログラムの改善・向上」を設定され、目標「評価の測定結果の活用事例の明確化」とされているので、例えば、項目(3)4-3④で貴学科のカリキュラムと授業科目の配置の特色として「統計・情報処理系の科目も充実、1、2年次の「経済データ分析入門」「経済データ分析」、3、4年次の「情報と経済」「ビジネス・コンピュータ講座」などでスキルアップしていくことが可能である。」と示されているので、統計・情報処理系科目に特化した学習成果の測定方法、評価指標を設定されてもよいと思われる。今後の改善・向上への取り組みを期待したい。</p>

## ◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらな</p>



	る努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

#### 基準4 教育課程・学習成果

##### 【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

##### （解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。